

第 14 回安佐市民病院跡地活用推進協議会 議事録

1 日 時 令和 4 年 5 月 17 日 (火) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 20 分

2 場 所 安佐北区民文化センター2 階 大会議室

3 出席者 (五十音順 (座長、市職員を除く)、敬称略)

大 畠 正 彦【座長】 (可部地域住民代表 (可部地域町内会自治会連絡協議会幹事))
上 野 道 雄 (安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)
高 蔵 浩 亮 (可部地域住民代表 (広島市保育連盟常任委員))
土 山 年 則 (安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)
土 井 澄 男 (安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)
坊 聰 彦 (安佐北区コミュニティ交流協議会会長)
松 井 修 (可部地域住民代表 (可部地域町内会自治会連絡協議会幹事))
山 田 豊 子 (安佐北区地域女性団体連合会会長)
松 尾 雄 三 (広島市企画総務局地域活性化調整部長)
荒 木 清 希 (広島市安佐北区役所副区長)

4 議 事

- (1) 安佐市民病院 (南館) 跡地の活用に係る配置計画について
- (2) 可部地区学校給食センターの拡張建替えに関するサウンディング型市場調査の結果について

5 議事内容 以下のとおり。

< 開 会 >

大 畠 座 長 定刻になりましたので、只今より第 14 回安佐市民病院跡地活用推進協議会を開催いたします。

本日は皆様方におかれましては、ご多用中のところ安佐市民病院跡地活用推進協議会に出席いただきまして誠にありがとうございます。そして議員の先生方、傍聴の方、記者の方、お集まりいただきどうもありがとうございます。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大状況について、広島市の感染者数は昨日が 524 名、今日が 412 名となかなか減少傾向になっておりません。そういう中で、我々も日常生活において、引き続き十分な感染予防対策を行って、早期収束宣言を期待するところです。

本日の当協議会は、昨年 12 月以来、約半年ぶりの開催になります。その間、皆様もご存じのように、新しい安佐市民病院が 5 月 1 日に開院しました。この開院に先立ちまして、4 月 24 日には安佐市民病院やあき亀山駅の付近において、地域団体による新病院の見学会が開催されました。併せて写生大会も開催され全体で約 380 名、この内見学会には約 200 名が参加されました。

このことから、広島市の北部の医療の拠点を担う新病院に対する市民の期待が大きいたことが伺えるのではないかと考えています。

ここまで広島市と市立病院機構、地域が一体となって安佐市民病院の移転建て替えに向けて協議を進めてきました。この機会をまちづくりに活かそうと、地域の皆様のご尽力をいただきました。

現在協議を行っている病院跡地の活用と新しい市民病院の運用は、車でいえば両輪

なのではないかと考えておりました、跡地の活用についても一つ一つ丁寧に決めていかなければならないということで、本協議会も果たす役割がより重要なものになってくると考えております。

このことから事務局も、議事があまりないからといって協議会の開催をためらうのではなく、頻繁に開催いただいて、区民や委員の皆様が情報を共有することによって、まちづくりの新しい命が出てくるのではないかと考えています。

そして、今日の会議の内容について皆様に十分に議論いただき、決まったことを地域の色々な団体で発表いただいて、跡地協議会がこういうことをやっているということを区民の皆様にはわかっていただくということが重要になってくるのではないかと考えます。本日は、これらのことを踏まえて議事の進行にご協力いただくよう、よろしく申し上げます。

本日は議事に入る前に、新しく松尾委員が委員になりましたので、挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

松尾委員

只今御紹介に預かりました、地域活性化調整部長の松尾でございます。池田委員の後任として4月から着任しています。どうぞよろしくお願ひいたします。私、前職が都市整備局の都市機能調整部というところで、紙屋町・八丁堀地区の活性化を担当しておりました。そこで主な仕事の一つとして、旧市民球場の跡地活用があり、これについては民間活力を活用して令和5年3月31日に新たなイベント広場としてオープンすることが決まっています。

この安佐市民病院の跡地につきましても、皆様と議論を重ねてより良い跡地活用を探っていきたく思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

大島座長

ありがとうございました。それでは、議事に入ります。ここからは着席にて、進行させていただきたいと思ひます。

本日の議事は二つとなっています。一つ目は、令和3年12月1日に開催した前回の協議会でお話ししました、給食センターと認定こども園、多目的広場の配置の検討について、事務局から報告していただきます。その次に、給食センターに関するサウンディング調査結果についても事務局から報告していただきます。

それでは、「安佐市民病院（南館）跡地の活用に係る配置計画について」事務局から説明をお願いします。

事務局
(地域活性推進課)

(資料1により「安佐市民病院（南館）跡地の活用に係る配置計画について」説明)

大島座長

ありがとうございました。只今の説明についてご質問がある方はお願ひいたします。

松井委員

私は直近の可部南学区の住民代表で、可部南学区コミュニティ交流協議会の機関紙で跡地に整備予定の施設について周知していますが、皆さんが気がかりになっているのは、単なる給食センター、工場では困る、賑わい機能を付加した施設でない困ることです。

今の説明では、給食センター内に設置するのか、別棟で設置するのかがわからず、それでは配置図にならないと思ひます。給食センターが先進地ではどのような附帯施設が設置・運用されているか事例を紹介していただき、それを含めて配置を考えないといけないと思ひます。また、サウンディング調査も行っているのです、それを踏まえた配置計画としていただきたかった。

もっと具体的な計画性のある資料を提示していただきたいと思ひます。

事務局
(地域活性推進課)

配置計画については、前回の12月1日の協議会で、この3つの機能を整備していくことをご説明した直後に着手しました。まず、3つの機能がこの敷地に収まるのか、そして、皆さんよくご存じのとおり、現在は国道から踏切を越えて直進して敷地に入りますが、このことについて広島県警からも改善できないかとの話がありましたので、進入路などについて検討したものです。

サウンディング調査の内容については、時期の問題で反映できていません。

また、賑わいの創出につながるような機能については、給食センター内に整備するのが良いのか多目的広場に面した方が良いのかは、事業者がどのような提案をしてくるかによりますし、どちらが利用者にとって使いやすいかということも今後検討していかないといけないと思います。その辺りは今後議論を深めていきたいと思いますので、第一段階としてはこのようなイメージだということを受け止めていただければと思います。

坊 委 員 この協議会の前身として安佐市民病院跡地活用検討協議会があり、そこでは認定こども園や給食センターについての話はまだなく、配置案にぼんやりと書いている賑わいの創出が第一の目的だったと思います。

当時から案としてあった多目的広場について再確認させていただきますが、安佐北区民文化センターが建替えの時期に来た際には、多目的広場が候補地となることは間違いありませんでしょうか。

事 務 局 多目的広場は、安佐北区民文化センターの建替え候補地として位置付けています。

(地域活性推進課)

坊 委 員 こういうことを言うては大変失礼ですが、前身の協議会から、事務局の担当が変わるたびに少しずつ考え方が変化しているような気がしています。

給食センターについても認定こども園についても、いつ頃運用開始かわからず配置だけを議論していますが、後から、多目的広場部分を使わないといけなくなったということがないようにしていただきたい。

その辺りも踏まえて、スケジュール的にどのように考えてこの配置計画を作られたのか、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

事 務 局 南館の跡地については、今年度南館を解体します。その後、多目的広場は、令和7年度の供用開始を目指して整備を進めていきます。また、給食センターは、今後、公募に向けた検討をしていくこととなりますが、現在の可部の給食センターの老朽化が著しいこともあり、令和7年度中の運用開始を目指しています。一方、認定こども園については詳細を把握しておりません。

(地域活性推進課)

今申しあげたスケジュールについては、次回に常用資料を修正してお示ししたいと思います。

坊 委 員 給食センターは、現在の給食センターの老朽化が著しいことから建替えが喫緊の課題だと言われていますが、令和7年度で十分なのでしょうか。

事 務 局 本日、この後の議事でサウンディング調査の結果について説明させていただきますが、今後、事業者への聞き取りを引き続き行い、公募要件を固めて公募を行うことを考えると、最短で令和7年度の半ばに運用開始になると考えています。

(健康教育課)

現行の施設については、それまでメンテナンスを行い維持していきます。

坊 委 員 最短でということになるともっと遅くなるのではという懸念が出てきます。

また、認定こども園のスケジュールもわからないということですが、各施設がバラバラに整備された場合、うまくかみ合って、第一の目的である賑わいの創出につながるのでしょうか。

事 務 局 確かに坊委員がおっしゃるとおり、整備が同時に進んで一斉にスタートできるのが理想ですが、それぞれの施設が、形態や進めていくうえでこれから経る段階が異なっており、難しいと言わざるを得ないと思います。

(地域活性推進課)

しかし、この跡地を時間的な隙間がなく活用するため、最短で整備できるようにそれぞれの担当部署で進めていくことになると思いますので御理解ください。

坊 委 員 今このことについて議論しても答えは出ないでしょうから、情報を共有し、共通認

識が持てるように、本協議会を頻繁に開催していただくことを座長にお願いしておきます。

上野委員 認定こども園は新しく作るのでしょうか、移転してくるのでしょうか。
移転するのであれば、手続き上早く進められるのではないかと、スケジュールを示せるのではないかと気がするのですがいかがでしょうか。

事務局 (地域活性推進課) 可部東保育園と落合東幼稚園を統合して、安佐北区の拠点園として整備することになります。今通われている子供さんがいることなどについて調整もあるでしょうし、工事や供用開始の時期は現時点で不明ですが、情報入手でき次第報告します。

土山委員 いろいろな施設ができて、これからは維持管理や運営がどの程度までできるかということが課題になるのではないかと考えています。
施設だけ整備して作ったものを「さあ使え」ではなく、利用しやすいように体制などを整えていく必要があるのではないかと考えています。

荒木委員 これまでの協議会でも申し上げているとおり、この跡地の活用は安佐北区全体に効果が波及すること、というのが条件だと思っています。そのためには、多目的広場に今まで広島市に無いような遊具を整備するというのは良いことだと思いますが、本日の配置図でぼんやりと示されている「賑わいの創出につながるような機能」については、今後、皆様と議論を深めていく必要があると考えています。

松井委員 給食センターの運用開始は事業者への聞き取りや調整があり令和7年度で確定していないというお話でしたが、そうではなく、広島市の教育委員会が、老朽化した現在の給食センターをいつまでに移転建替える、という計画を策定すべきだと思います。

また、子ども未来局が来られていないのもおかしいと思います。現在、狭くて危険区域にある可部東保育園をいつまでに建替えるという計画性があって賑わいが生まれるのではないかと考えています。

これらのことは議会でもっと取り上げてほしい内容だと思います。スケジュールが決まっていなければ、区民の皆さんに報告もできないのではないかと考えています。

落合東幼稚園は定員を満たしていませんが、可部東保育園は通園者が広域にわたっており、定員を満たしているうえにまだ入園を希望されている方がいます。また、土砂災害や河川浸水の危険区域にあり、園庭も狭いことから、1日でも早く建て替えが必要だと思います。

子ども未来局が来られていればその話が聞けたと思いますし、それらの計画があつての配置計画だと思います。各施設の担当部署の方はこの配置計画を確認されているのでしょうか。

事務局 (地域活性推進課) この配置図は、3つの機能がこの面積で整備できるのか、そして動線がどうなるかということを中心に検討したもので、関係部署は確認済みです。

また、先ほど申しあげたとおり、全体のスケジュールは不確定な部分がありますが、最短で進めることができるように考えています。現段階ではそれ以上のことは言えませんが、新たな情報が入り次第ご提供させていただきます。

土井委員 認定こども園は統合ということで、落合東幼稚園と安佐南区の幼稚園が廃園となることが新聞記事になっていました。私は落合東出身の代表なので、幼稚園はどうなるのか、廃園になった後はどうなるのかといった質問を地域の方からされることがあります。

現在、共働き世帯も多い中、落合東幼稚園に地域から通っている園児も少ないし、廃園となることは仕方ないことだと思います。ただ、廃園となるのであればその後使いたいという団体も出てきていることもあり、いつどうなるのかということを経験の皆さんに伝えていきたいと考えていますので、情報提供をよろしくお願ひします。

- 大 島 座 長 他に御意見はありますでしょうか。
今回の資料は現時点での案という事ですので、皆様からの御意見を踏まえて修正していただければと思います。賑わいの創出につながる機能についても十分に検討していただき、修正案を次回の協議会で速やかに御提示いただければと思います。
それでは次の議事「可部地区学校給食センターの拡張建替えに関するサウンディング型市場調査の結果について」事務局から説明をお願いします。
- 事 務 局 (健康教育課) (資料2により「可部地区学校給食センターの拡張建替えに関するサウンディング型市場調査の結果について」説明)
- 大 島 座 長 ありがとうございます。只今の説明についてご意見がある方はお願いします。
- 坊 委 員 サウンディング調査を実施する前に開催した前回の協議会で、給食センターに併せて、例えば、カフェやレストランを考えていると説明があった時に、先例があるというお話だった気がしますが、そちらのお話を聞いて参考にされたりはしなかったのでしょうか。
今回の調査結果は非常にネガティブな印象があり、せっかく良い方向に進んでいく気がしていたのですが実現するのか不安を感じます。
- 事 務 局 (健康教育課) 北海道のある市の給食センターで、給食センター内にラウンジスペースを設けて、そこで事業者の提案により給食レストランやオープンキッチンを実施している事例があり、そちらをイメージしながらお話をさせていただきました。
この給食センターが、現在本市で想定している給食センターと違うところは、北海道の給食センターは公設民営であることです。
今回の調査は民設民営を前提として行っており、賑わい創出につながる附帯事業は、アイデアは考えてみたいが、事業者の独立採算で行うことに懸念があるという意見が多くございましたので、条件を変えることや別の方法で行うことで、より事業者が参入しやすくなるように追跡調査を行って検討していきたいと思っています。
- 坊 委 員 そうすると、現在想定されている給食センターは日本で初めてのケースということでしょうか。
- 事 務 局 (健康教育課) 日本で初めてか断定はできませんが、今回の調査では、地域の方が集まってくつろげるスペースや季節ごとのイベントを提案された事業者さんはいらっしゃいましたが、完全に独立採算でレストランやカフェを設置、運営した経験がある事業者さんはいらっしゃいませんでした。
今後は、どの条件によって難しくなっているのか、条件を変えれば可能性が高まるのかということを検討していかないといけないと考えています。
- 坊 委 員 失礼な言い方になりますが、サウンディング調査対象者の選び方にも手さぐりのところがあったということでしょうか。
誤解がないように申し上げますが、この協議会は事務局をつるし上げる場ではなく協力して跡地の活用をより良くしていく場です。つきましては、委員から建設的な意見がでるようお願いしたいと思います。
- 山 田 委 員 地域が一番求めている賑わいとしては、数字だけではなく、子どもたちが安心して遊べるとか、家族連れが集ってくるとか、画期的なものであれば良いと思いますので、その辺りを考慮していただくようお願いいたします。
- 高 蔵 委 員 私は認定こども園の園長をしていますので、良い認定こども園ができたらいいなと考えています。

確認ですが、給食センターは小中学校の給食を作るのであって、認定こども園の園児の給食は認定こども園で作るということでよかったですでしょうか。乳幼児さんの給食は、離乳食が中期、後期で分かれていたり、アレルギー対応として除去食、代替食など細かな対応が必要であり、多くのこども園では、自園調理を行っています。

事務局
(地域活性推進課)
松尾委員

担当課からは認定こども園の中で作る予定だと聞いています。

私は、前職で旧市民球場跡地のイベント広場の活用に関するサウンディング調査を担当しており、その際、事業者単体ではできることや発想が限られるということを経験しています。そのため、最終的な事業者公募では、事業者グループの応募も認めることとしました。

今回の公募を同じようにするかどうかはこれからの検討になると思いますが、今回の調査に参加いただいた方は、給食の調理事業者が中心になっていますので、地域の賑わいについて質問しても、今まで考えたことがないのでよくわからないというのは自然な反応ではないかと思います。

サウンディング調査の結果を見ると、にぎわい創出を専門とする別の事業者と連携し、同事業者が企画運営することを可能としてもらいたいという意見があります。これが正に私が申しあげたことで、それぞれの分野を得意とする事業者が知恵を出し合って連携することで新しい考えが生まれてくるのではないかと思います。

旧市民球場跡地のサウンディング調査を行った時も、最初は事業者が単独で回答をされますが、次第に課題が見えてくる中で、さらに突っ込んだ追跡調査を行う過程で、そうした課題に対応できる、例えばにぎわい創出を専門とする事業者と連携する機会が生まれてきます。そうすることで、より良い回答が出てくるようになるのではないかと考えます。

このことについて、事務局でご意見があれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

事務局
(健康教育課)

今回のサウンディングでは、参加者からの提案により、希望する参加者間で参加者リストを共有しました。今回は集客事業を得意とする事業者はいなかったのですが、この調査の中ではそういった連携は生まれませんでした。今後は、そのような事業者を巻き込む形にできないかということや、公募の条件を見直すことで新たな提案が出てくるように検討していきたいと考えています。

松井委員

今回の調査では給食センター運営事業者の意見はありましたが、賑わいを創出するような事業者の意見がありませんので、更なる調査を行っていただき、応募しやすい条件を検討していただければと思います。

上野委員

給食の提供範囲について、資料では「安佐北区及び安佐南区の一部」とありますが、白木地区は提供範囲に含まれているのでしょうか。

事務局
(健康教育課)

含まれております。安佐北区の全域と安佐南区の北部と考えています。

大畠座長

サウンディング調査の参加者は12者あったことから、給食センターの整備に関心を持っている事業者は多かったということだと思います。

私個人としては、給食センターに賑わいを創出することなので、カフェのようなものが併設されてそこに人が集まってということのを想像していましたが、その辺りが課題ということなので引き続き調査を行っていただければと思います。

ただし、給食センター運営事業者に任せっきりということではなく、より良いもの

ができるようにこの協議会でも随時検討することや、協議会を通じて色々な所に働きかけることが大事なのではないかと思えます。

また、検討に当たっては、多目的広場に区民文化センターが建設された場合のことを考えると、周辺に飲食店が少ないことも考慮できればと思えます。

全体を通して何かご意見等ありますでしょうか。

無いようでしたら、5月1日に安佐市民病院が開院しましたので、開院の前後や現在の状況についてご説明いただければと思えます。

事務局
(市立病院機構)

お時間いただきありがとうございます。市立病院機構の安佐市民病院整備室の中でございます。御出席の皆様方には安佐市民病院の建て替えに当たりまして、多大なる御尽力をいただき誠にありがとうございました。お陰をもちまして5月1日に新しい病院が開院いたしました。まだ古い病院の片付けも残っており、バタバタしてまして、本日は資料を御用意できておらず、口頭とはなりますが、お礼も兼ねまして新しい病院の状況についてお話しをさせていただければと思えます。

新しい病院につきましては、建て替え場所の議論に始まり、様々な経過を経て、5月1日に開院いたしました。まず、古い病院から新しい病院への引っ越しに当たりまして、通常、病院の中には400人程度の患者さんがいらっしゃいますが、引っ越しということでございますので、患者さんを100人程度に絞ったうえで移送する計画を立てていました。しかし、更なる安全を見越すため、100人ではなく、50人まで患者さんを絞って移送することになりました。

当初我々の計画では、移送は朝8時から昼1時までという計画でしたが、実際には11時半頃には全ての患者さんの移送が終了し、無事に5月1日から医療行為の開始並びに新しい病院の開院となりました。5月2日は平日ではありましたが外来を休診し、5月2日から5月5日までの間で大きな荷物、主な荷物の引っ越しを行い、5月6日から外来の診療が始まりました。

通常は1日800人程度の患者さんを見込んでいますが、初日は絞って、事前に登録いただいた200人程度の患者さんを対象に外来の運用を行いました。特に大きな混乱もなく5月6日を終えまして、その夕方には主なスタッフが集まり、反省会と申しますか、何か大きな問題があったか確認する会を開き、翌週の月曜日以降の診療に備えました。5月9日から通常の外来診療が始まり、その他の医療行為につきましても現在のところ大きな混乱もなく、病院の運営が行われています。

駐車場について、十分に用意をしたつもりでしたが、当初、地下の駐車場や地上の駐車場で時々満車表示が出て我々も驚いていました。しかし、よく聞くと病院へ色々な業者が色々なものを納入しており、その状況を見るためにたくさんの業者が来られたようで、そのことも影響していたと思われれます。現在は大分落ち着いてきており、本日は満車表示が出ていないということでした。

救急に関しまして、新しい病院はドクターヘリのためのヘリポートを備えています。既に2回ドクターヘリが来ています。古い病院では、河川敷にヘリコプターが止まり、そこから救急車で救急搬送するという運用で月に1回程度の頻度でしたが、新しい病院では月の半ばで2回あり、ヘリコプターが来るペースも増えてくるのではないかと思います。

また、救急車についても、新しい病院は救急に力を入れることとしており年間6,000台を目標としているところ、開院効果もあるかもしれませんが、これを大幅に上回るペースで救急車に来ていただいています。徐々に落ち着いてくるのだらうとも思っています。このペースでいけば年間8,000台程度になる見込みです。病院としてはこのような状況です。

加えて、皆様方にも御利用いただけるレストランは、初日の5月6日金曜日は用意していた食材が全てなくなる状況で多くの方が来られました。翌週の月曜以降は落ち着いてきておりまして、皆様方にも機会があれば是非とも一度御利用いただけたらと思っております。

それから、我々としても非常にありがたいバスの運行につきまして、バス停が病院の目の前にありますが、順調に運行しております。ただ、JRのようにたくさんの人が

乗り降りするという状況ではございませんので、地元の皆様にもたくさん御利用していただけたらと考えているところです。

我々の部署では、病院の工事やシステム関連、ネットワークの設置をしておりますが、新しい病院の運用を始めてから見えるもの、気付くものがたくさんあり、まだ現場からの要望を色々受け付けている状況でございます。そういう意味で、我々の部署が落ち着くのはもう少し時間がかかると考えております。

皆様方には引き続き御支援をいただきまして、新しい病院を大きく育てていけるよう、重ねてお願いをいたします。本当にありがとうございました。

大 畠 座 長

ありがとうございました。

非常に広い病院であり、診療を受けるだけでなく、病院へ寄って食事をしてもらうのも非常にいいと思います。JR の駅長さんが言われていたのが、当初見込んでいた以上にあき亀山駅を利用される方が多くなっているとのことでした。病院の職員の方の利用も多いと思いますが、開院の効果が出ていることと思います。地域としては、より喜んでいるところです。

今日は皆様方にクリアファイルをお配りしておりますが、JR 可部線利用促進同盟会が可部線の電化延伸 5 周年と病院の開院を記念して作りましたので、何かの際に使ってほしいと思います。

それでは、長時間にわたって審議していただきありがとうございました。今後の日程につきましては、冒頭に申しましたように、頻度を多くして情報を共有化すること、地域の皆様の意見を聞いて持ち寄って議論していくことが大事なことと思います。とは言いながら、跡地活用するのも期間がありますので、早く結論を出して、良いものを作っていきたいと思っておりますので、今後、皆様の御協力をより一層お願いしたいと思います。本日は長時間ありがとうございました。

< 閉 会 >